

令和6年度畜産技術検討会と酪農技術研究会研修会が開催されました

令和7年1月31日（金）、畜産技術センター主催の畜産技術検討会と、酪農技術研究会（事務局：当所普及指導課）主催の酪農技術研究会研修会が開催され、生産者、開業獣医師、関係団体、市町村を含む関係機関、あわせて60人が参加しました。

午前の検討会では、当所の取り組む研究や普及指導活動について、企画研究課からは「未經産牛に対するOPU（生体内卵子吸引）の利用」と「肉用牛経営における温室効果ガスの削減」、普及指導課からは「WCS用稲の湛水直播栽培」と「牛群検定成績（乳成分分析結果の速報）の見方」の計4つの発表を行いました。温室効果ガスの削減では、エコフィード給与の方が配合飼料のみの給与よりも削減効果があるとの報告があり、環境負荷低減に向けた糸口となる内容でした。また、牛群検定成績の見方では、乳成分等の速報値から乳牛ごとの健康状態を把握でき、飼養管理改善の迅速化に役立つといった情報提供がありました。

午後の研修会では、愛知県で管理獣医師として活動する酪農計画代表の谷名美加先生から「逆風の時代に抗う収益確保の挑戦」というテーマで、苦境に立った酪農経営を再建した事例についての講演が行われました。谷名先生は、乳牛が摂取した栄養の分配は繁殖の優先度が最も低く、繁殖が良好であれば、結果として泌乳能力も最大限に発揮されることから、収益を確保するためには、繁殖が順調に回るように飼料給与メニューを適切に調整し、繁殖管理がしやすい牛群を維持することで、生産効率を高めることが重要であると説明されました。

開業獣医師の方々からは、飼料給与メニューに関する多くの質問があり、酪農経営改善に向けた関心の高さが感じられました。

今後も、厳しい酪農経営をわずかでも改善できるように情報発信を続けていきます。

